鴻原記

天

繪入本

外禁

玲斧
寛永板

特
リ 5
4766
1

門 リ5 特
類 4766
巻 1

黒川真道蔵書

序

年生所いへど。羅波ゝよりかさ賊の境界を奥家ゝとこてきたにやとおもひきゝねゝ。身をうさ。私の梶をこゝ。黒川真道蔵書ゝよ
波へとやてゝよへば。極楽ゝのうて
新もあり。こゝ絵しゝも寛永庚辰秋乃
宮中ゝもゝや過ゝす。染の世ゝもゝ
らゝ見れ清思はゝゝ。絵たゝりとゝ。沼蔵
の邊ゝ覚ゝ。野りゝの宮ゝ。むゝ
きゝ。極ゝへのゝゝ。れゝくゝ。思ゝ月ゝ
忘ゝりゝ。ゝゝ。ゝ

まうかぶ。こゝ〳〵火ぜかゝぎ夜ぢもかゝ
業と奈ゆゑ〳〵萬ゝ事。おりひのこさぬ
所うゝ世ゑ宮ゑかよゑのうは。家一と世孫
ゑの侍ゑ籠ゑ籠ゑ。肥の前後国路ゑ率
ゑ狼煙ゑたちゑぎ。たゑゑく久しき子孫
濃かゑりを拂ゑ戒の數勢。めつゝかゑう行
軍ゑゝ後ゑ海ゑ地ゑ。愚ゑとゑゑれゑ
ひゑゑ行て。ゑ姫ゑ組見ゑゑゑ。ゑゑゑゑ
ゑ地ゑゑゑ夏ゑゑゑ浪ゑ乳の神ゑゑゑ。ゑゑゑ
ゑ侍ゑゑゑ。ゑ備ゑゑゑ鄉ゑ宮ゑ當ゑゑ

そゑゑゑ風ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
て我ゑゑ海ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑ。四里ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑ

鴻原記巻上目録

一　吉利与丹始發之事

二　松倉人數深江村へ押寄事
　付　鄉人等高来之城へ籠入せ事

三　松倉人數竜城之事
　付　城内より三江村へ粮とり出し事

四　天草吉利与丹蜂起之事
　付　大矢野大目庄搦捕事

五　天草城代三宅藤兵衛唐津へ使者立事
　付　唐津勢天草へ押向ふ事

六　鴻原一揆之使書を以天草宮島と大將立事

鴻原記巻上

貴利師檀始發之事　一

南刀はじめとより右利与丹こゝ流家ハ日域渡来はじまりしとかゝへのらうをうよりよりぢぐいんこやうはしこえかゝいこでいりとゆゝぐたいきいりはしこゝろとやよせこらをんとでよ元亀天正のこゝろおひいなもぐくようつもうすこゝのへつとゆゝるばしそはくとんゆうとゆゝぬちよおこるはいたく事數巻のこゝろわゝうゝめかのこゝしハのもゝしゝちゝんよゝぐてきこんいゝるまんなぐいゝしとはゝんてゝうよゝぶんこんしゝおゝま祢くゝもゝまひとひそかゝよゝせゝうゝちんとゝゆゝゝちゝハゝゝこゝるゝこゝふゝゝんゝんゝよゝこゝゝとよゝとんゝゝりゝぢいゝうゝとゝきゝかゝうゝはゝぶゝんゝぢはゝだゝんゝた

んゝかゝよゝいゝうゝてゝもゝこゝハゝもゝやゝこゝそゝんゝめゝいゝらゝうゝかゝりゝとゝもゝめゝはゝかゝうゝぎゝんゝきゝぐゝくゝどゝめゝいゝし。秋津洲のこゝせゝんゝよゝくゝもゝぎゝんゝるゝはゝよゝゝいゝてゝぶゝこゝうゝんゝハゝあゝしゝをゝうゝんゝよゝめゝいゝぢゝ。ゝのゝをゝふゝらゝんゝこゝてゝゝとゝしゝきゝこゝそゝんゝとゝゝぶゝうゝこゝやゝうゝをゝるゝぶゝうゝ池ゝゝゝゝんゝゝのゝもゝうゝふゝんゝしゝをゝうゝいゝよゝもゝうゝゆゝよ南蠻船ゝゝうゝもゝうゝちゝんゝをゝくゝのゝへゝぢゝうゝをゝいゝりゝはゝしゝものゝよゝゝゝぐゝゝゝあゝ次ゝわゝいゝぶゝもゝよゝもゝゝはゝぢゝくゝゝんゝらゝゝまゝ流ゝりゝひゝんゝくゝをゝきゝりゝくゝゝでゝいゝくゝゝはゝいゝをゝうゝす。ゝもゝのゝのゝこゝゝかゝくゝゝどゝゝあゝつゝがゝいゝびゝゝんゝよゝいゝくゝゝもゝてゝきゝてゝんゝいゝくゝをゝるゝ次ゝあゝいゝぶゝゝぢゝんゝうゝぶゝゝゝゝ

やうくかくうくはきのふまてらそひせてふや
うとぞくふとてるくらいをよをぶかゆうゆくよりんこう
けさやうむうはかくあつんこうこうくふくきあり
東照宮天守のむかそ分くありせられぶつまこつく
まりひかくらるりとおはこうよきこうもんあり
ふさうのめんきびくぶきうちりうはくらは海
らちうしとかゆうとありぶくうのちうもんよふくれ
りひりりきうるりだくぶつまこでやうでんくうもん
神んぶちうちりるのそくぶとかをりぶちうあい
だうん神んは田宮一重神社おかはしはと冊とのふうふしよ
とのごとくくきごんぜりしうちぬとかくうぶ愚をとへ
らくきんうくけせぶやうとうくうもんもこかぶものと

ほうはふうもの、あんをうくがうかゝ御まつりくとゝ
あれハ、ものもよいほうんそのうちををしくめてゝ、ふくうあん
さいけをうりうゝ、ふくよ宮永十二年十月下旬う
いりく。鎮西肥前の、ものゝ、ゝ、ゝ、

ぬきとそんな所こそんなりあるあてそのもの物異国へ行いか
りあるかのむてまんそのこと
一銭はもとのこと
年より五こはきさせこうしかおよびぐ。ぎついさよ
ぜんぜう一人ものいせるし。ぬ。ばさるよしよだう
とをつるし。そんぜんせるべ。さわ。ばさうざいん
燒し。ぶくかはじはもかさうばもよ人のうしらか
くるはとそて。海ごう野山よもくるまびぬ。へ
うもとを見る時。玉可あり。こをいまはをくとの
よしものとうげんをかこうし初めよおべりまし
めいどんはゆいもよかさうば
どをひめくし。もの
とんをよぶ。ぬかうくはとあ
あ。はざるふもよげくをつる。
をのくつよきくもこうあまくさ基共湯げかん
四高こういまぶざおく初めとりとのへとをもきり
さんはぜんあんさりかざいあま初めあ。被人色
さればいあ。へていうもとをそんしやせをりうは
せもやこうかんせいまして。ぬこはまもゆこうり
しうぬぬ。ぬ。やりかみをまるせきり
さんはもうしをあきうりぬぶ
ひこしうりあめこぬ。ぬ。げ
せいあいもこあこくこ。あるかるさのうきよあきば
ていうもとのあぐこいまよきたりそんかこくいあ。へあいて

んみんとおりひいくぺさりしてんかきんしけひと
くいはあうぐさまちんまんわんてそんけちあよ。一ぬひと
とおくきんとのそこたまんぺけちしをそりけかうの
そんかのきんかうとてぺきいのざいくとかちよ分
らちこしぺかはくかくぐうくぐうけとけく一ぐうう
ちんきせぐぺきりくきりんとちんかつせんといひろる
はぺきやえ弘のもの橋兵衛四郎ぐんしけのをろう
んぐうあぺそんとうじみらいきかこよのせがうちよ
をかせくかくとかくぐけるくんだけ者農
等ぺりくぐよりのちうしをうらぺうの紀よ
江戸りりあつぐくるれはをりをおくきおりけ
まゆをひくこぺあうぐさふきんかんぺこしすはは

かくぐけるくかるけきくくいくきくくるかのか
むくけきくくかけ志朱尤右衛門　いくるやどんをを
あきをきぎりしくんかちんしけ者るりしぺこひ
くてんのらいさくくよいくうてちよどくしをん。
でいくきこのかくきちをきうとうかきけりくてけ麻布を
あかけきくぐけ人をけ人をけ人を

ハ。あり。こゝろいよひやうしをあり。尾志来あり。さに
おと海さうよ海ちんて。ちれのうゝ。お海こい神ら
いゝちんていをでんのあ。れみまゝりて。と。絶
代あのといさゝ。いま氏時おわゝまれうり。海
こゝろき御つをとあふ。ふうん人よ海ゝまんゝ。ぢん
ちよれ海ちきりゝたんよ海をゝきはきゝつゝく
しよちんさゝくれあゝひとあゝ。かのうゝいをと
いせんとく尤右遠つががうゝをとくふんぢ面とあんお
ゝいちバのゝとゝ。とゝわれ代宮氏ゝときて
海けわゝきよとゝ海ちきやうて尾志来ぐちゝく
ちよへゝをゆゝさゝてわまばきゝゝハゝのかと
あゝ海をんをいれをいあんらうゝやゝあんあゝ。

ばきゝゝ。ゝ。ゝ。

よりさぶらんくぐんぜんありぐんしを
きりしとちうりんをそうりくそうぜいのうこきりぜ
ぐんをぐんうふせをきあくまーぐりむをそ
きうんぜいうそきうのむくれ者こをりよりり。
それこうんりんのぎいくあくしうれこ鶴を
あうひんぶぎあうざひいくんらぐのうひハ田原
のりそりくしふう鶴よ鈴くきうりくえん
うきいくしあれかうくくあこちくそ
ぜうれぜくーぎの一こぜくーまれこありのぎ
ぜりぐこうとぜとそうへー

松倉人数深江村押寄事　一、

付　郷人等高槻城へ入籠事

さうりくゆまりくゐまりいたうとゝ。はしめ
ちうちんありけれ。をのくあはきみをしろき
ぢうくうちうせいうくとそむまのり十はさぢう
ひやうれいまさ三百余人よりう八十よりあう
わひとをものざいきよ今うしやうをたちうち
とべさよ〜といひつゝ。ちうはいうくゐ月
廿六日うれうくまちうれしとゝ。深江村へ
しやせん。ゑ百よ人のをれうをきをひあまつく。
ゑうかうきの子ゐをくれいきうし

おつかうとうとゝ。ゝしくゐまけ。ゐ
六うちようれ屋ゆまつ。一千ちうりあこつて。たぶ
のよてつかうちうゆぶ。うをせんうくせあく
たうぶさまどゝ。一三八させいうり。ちろぐこれ者
とゝはゝどづう三百よ人よくゝう。ゐへしこはうへぶう
ちうり。ちうりとちゝ人とゝ。ちろぐこれてつかうよ
てゝまつさうけし。ぶうんを二十よ人うちた
をゝゝ。さうしうんのうをうこうとゝ。ぶまよすに
うをとくまはうくうれ。ちはふを入をどう
こう人。あゝさきんでゝとゝもまはくうれ
ひくくを。一人をりうさうぶんぢ。ぢうとう
くぶゝまつさはけひれ。むまのう五六さ。ぢうひ

やうれこまこ百よんやかまたにうくをとしそう。
日ゑ海さうんやをうりあらうりかーらをうぶーじや
うだごうをぴぐげうりあうそふてうかうるれか。
一つをあうやをあうりうそうぐれをそまつうか
ゑのひーくぬうくれだうやうをうつうあはだう
あんれをりうりんぜりうんざありとそをーむば
れうをゑあるおうふへうをうう港刀組織をいうはうそ
てゑううあうう武勇れかゑをうあんよみをう
やあんとぴうをうーだかまうをいうをうれふぜいを
てぜんぐんうづる者をあくーぜんあをあよりす
をんくふうりいそうらまこゑくれ城ますてひをけ
ぶはあうをまりかんーかーり次第ありぴあまりをへうくう

だうも一里ゲ海ゑをいうをうーぴはいをあひよぜうじてぴゑくれん
城一をせあんをとてぴをこりりあぐくをうーらをぜうをうぐを町をうを
やををうふ城方れ人くをと南をうていあくぴをうくあのへうを
あをくうをうぴんのゑりれだうやうをそはいをありれをうぴれだ
れをとうをうやゆうぴゑくーのうれりれくかりをーぐかんをうれを
をあれれがゆをやりあをりをうぐれをーれをうぐれをそはう式ハ行ゆう
あをなぐをあうをうをうりうくぴやうをうへようをありわ重
もくくをすくあれぴの城をうをくをりハ長州親父豊後ゆるに
らへをうをれ城ゆる重ハようぶハをうりぶけりーをうれ海四れ人を
うをぐをんうーゑせをうれハぴ海ゆうをのをりれりようぴをりーー
んんのゑりをう二百よ人をうを重をれハぴーりれをけを
をううらをぴいくをせゆうれをれをよハぴ。そのゆうくひい
てのをうーうれ

松倉人数籠城ノ事 三

付 城内より二江村へ粮取ノ事

ちゝぶのさ松倉ゝ氏ひとりくがうんへよ恐懼と臣
そのゝらハ一きゝぐらゝ氏ハいさゝまてとかく
ひゝくよゝ高来ゝ郡ゝとぐゝみんよ入ら臣
とのこゝろゝちゝゝふゝしゝうゝよひとれされとも
城内のハ長刀ゝ長刀ゝもいれていゝるもハゝさゝゝひとも
もゝゝうゝ次ゝぐゝうゝ五十ゝ人ゝ一ゝ
七百ゝ人ゝうゝさゝしゝゝゝぐゝけゝんハみゝゝうゝ氏者よ
てゝゝうゝしゝふゝうゝぐゝとゝうゝふゝ所領氏者とゝもゝゝ
けゝいのゝゝゝゝうゝこゝれらんもゝさゝふゝうゝまゝさゝれ

城門はぶくとぬきこれをこうしてあいく
あぶんをせてはぐうめんを一つよこしてハありかるる
ちるるわいぐ城門八人こよのせるる屋門のもるより
を光ひろ〳〵れ下僕るのをはいゆうるもんをる
ありるぶされとをかくてハありどそよくく
せんさくとぐ〳〵数百人ぶるうり百よ人ふひ
いぐ〳〵流まちらくむつすぶども城門の
うぐいるるくこさるをとはぶあんかく
ふらうじふ八ありるぎんつもんは御うをひ
をこハをやされせんきあくく鍋鴻細川安公ハ在
江戸ありしるをなまハぶるやうふは家臣よるる
しね使者をしそぐせいをこいはふひよるるぶれ

三十

三年よきあくく本陣鍋島はしりく於ハ道ち
ようふ五六里をしいそまぐ刈田は庄よひ人きり
細川越中ち忠利は豊前ち豊前
いひし者八人数千よりんぞんし肥後ち川庵ふ
めをしぶへをしいぐ有りるぐされともをんうは
御をつとにたとひをんふいうやうはとありそ
を御ぐどうあさるぶ

そこのそく所をとりくれ
ばをあさんとわりしくの毒薬より加勢ハさてく
いてざりるとかるのびくあるもまぶるあ
よて数日をうつしいよくくらうかりさして八千
よきかあるくくやそのの海ハ一きの在川ある
多くくれ城へもとてよりの世源ひとへよ軍起れけ
いつもやく豊群糧集れよりいそぐきこへしかくて
日ふ後うつるかくれ十一月上旬ある源原れ城よ
り北のくこ三沢といひ一ざいちよりこれハ志源
くれ者ともあるふよて城内糧絶ものとりの
しあきはのむくよ勝家数万石れ糧義あり
城内より兵粮をとらんがくあ馬のり十匹五駄つ

う三百よ人よりてあるあ百ちやくあひそえくのこ三沢村さと
しついろ志源ようこ沢れそのあつこ里ろれてありるに
こ沢村ハあまくあくあ中分なきりくくこんぞ中分ハ志源
くありしぐよんちよれ若れ利よ母若ものよりとんぐくこ
てそう数百人なかぐとせそれぞ志源くこ者
れわとそさくぎそぐくさつかりとせちかくさんぞ
とりあへとそれさきあくこあ高よくくそのこさ志
源くこりれ大将よ高橋源次右源高白三郎左右源八
沢白右遠ものきくいりんあてんつかりしぐ一日こと志
ものそ後うしちかそきかのくのかのくハひくさく
志かもとよりす。城内さしてひきあくくものちハ郷全
みかの近郷とくあきりくんよ志ぐへいま糧義とも
そくれやつもくうんひとりとくこへ

天草表利与丹起殺れ事　四

付　大矢野れ大司庄りゝあらゝ物事

かりくるらゝる。肥後の国問わまくさといふて江戸方よ在れ離潟あり。ふまこれ寺沢兵庫頭忠高れ見やゝふんあり。ふ鴻と一方よ在れさいゝよゝゝゝ色きりゝうん丸宗旨をそこのあのところれをうり八生住わまくされ豊まよ。甚三郎と申者あり。ゆ甚三郎きりゝうんの宗旨戒編教の者ときこゝゝゝゝゝねよまよゝゝ長潟色ゝゝゝゝゝ

さくまちようまちよりせいしゅうをいとくあみーだがまげさ
よほ島といひくそのくろうしゃくはあり
かいなりあるぶんくるくまちせさ普通みもぐまー儒学
おんをよせ一学両悟のうりはあくさあおりはあし
あまのりさんまちよまちつをおぼへーしょうんを狂風
ーくろあひさ名誉れ者ここ人くーあかかかか
ちくろおよて近年はかのほ島よ方く遍進ちせ
悪ちゆはあく隠居のやくあくあくちりくろされは
このほ島ちよじーあつとはくーあくたよきくく
をあーちよくんよみをるおよてんふ善心をひる
かへーあれまでいうとれひまれくりあくうん
つよおほくーそくくれ家をるおかをこをあせ

ひぬくくさくあまくくさかほ島をのがこきやうあまはハ
父子をよ前縁ちはれよおまくきえくへ。
ひくへよおまをくめくりくりくり

[illegible]とてもそのうんとき八ちてでいうみすれさあよ家の
[illegible]うんどやうれいのさしをおりひさこあるあるぞちんざ
いこふきりしうんふ傾城せんるすうこうこがいあり。さて
ちはちよくこうとこよこうくこまこと家ひつようう
そそんこうくこあるのいうらうあり。閑くこ鴻原れ着た
あもこその細数をそすせーこぞんのこうこさこやうんか
こうんこうや意趣をひくこまこきこのこをのくいう
ひいとこのくいひうれいはこくこくよりわまれ大
司庄波通小尤右衛門くいふこの甚三郎ぎんざいの
弟ぼ鳥ふうこあるよハ叔父ふまこたいよりくはきうり
ごうこじこうこうへハ。大矢野をりーめれて天ふ
中ふあぶんぼいこもあかいうこをせーきのこうこさそを

あり。ぼかしはうへハいまこうせこ
ぼ鳥ふ老母兄弟ふもこうこまれは都よりこさくれいこうまこてこを
をひきこうこうこうこうこを時宜ふようてこをこうんこうやな
りひうんこの波通小尤衛門ひそうふよ下ぼ五人ふくゆ私
かのり細川越中ふ忠利のこうやうるいこうこれうりり甲
れ浦といふあるよ私をうせありくうこうれた天草一揆の
こと。こうやうんふをよかくまふ。肥後れ大将の殿下ぼくみを
とくくよ毒をもへ。征還の希まそこをさひくくいこくこ
にうて小尤衛門ふ深謀のうまこうくこのまくかくあこくれ
まけこと。わまいこへこうこうよわりゆうぼ鳥ふこくこ兄弟け
んこくこよいこうまこてこうこ
こうやこふりよくふ

天草城代三宅藤兵衛財唐津使者之事　五

付　唐津殿天草御領向事

代こゝをやわまゝ者へきこゝ一きこゝとまり
わ世ゝ代わきりかをこゝとんきこゝえくれこゝと
いわうへきめ〳〵わ〳〵ほこゝそのこゝほハいめく
一きれゆきこゝどれこゝひさこゝめて年貢特菓よこゝ
るまてこゝとこゝこゝ公納いこゝぞこゝこゝとのく
ゝくこゝうこゝすおこゝまよこゝんこゝれこゝ多いこゝこゝん面
長代さこゝ〳〵ひこゝこゝと代こゝうこゝを見こゝんこゝいこゝうめこゝき
こゝこゝきこゝをこゝいこゝざこゝいこゝこゝんこゝこゝこゝうこゝれこゝこゝも多こゝ世こゝいよ
ふ者こゝいこゝうこゝかこゝいこゝこゝこゝやこゝりこゝひこゝこゝんこゝこゝこゝこゝ富岡
代城へこゝめこゝけこゝこゝりこゝこゝこゝこゝ

それなる宅あるをみるとて海ちかいふる浦風
みつきぬるそう風〜〜きこゆるおもしろさ
う〜〜しとかれるひとりとしてあるこれ
あ〜〜ゆかしあ〜〜い大やぐらん海道ぶうてをい
そこさ〜〜ゆかいまこさせいよあるこゆきよ
しら〜〜白き海ぶ〜〜そ野ぶ〜〜あゆへ〜〜とそ。
野面をよへいこそ〜〜ゆれゆかさふ〜〜ひまこそ〜〜
さい〜〜ちよ〜〜ゆかしあ〜〜ぶそんつれ者ども
ま稀さよ野ぶ三面よんへありるぶ。ちれ〜〜六
十よらや〜〜ゆひそへぶとそよのぶやよへをし
ひきんさ〜〜ぶ〜〜せ〜〜れひまいのめぶきら
しぶいかんん面長のぶがそうこと。ゆよ〜〜ぶ

ぶ〜〜ともあ〜〜ゆへとも。ちゆ海ぶさうれ一まぶ
てひまぶでよちやう〜〜づ〜〜あ〜〜りよりぶ。ゆ根矢野
手東ぶそ〜〜〜〜。海ぶやあさせぶ〜〜ゆいるまそ。ゆ
ちむ〜〜ぶきちや吉利ら舟ぶ心高〜〜ぶるまぶ〜〜ゆ
えぶ。そのうへうむ〜〜やぶどもをせう〜〜さ〜〜ゆら
ハまちぶん一きゆうりむ〜〜ぶそら海ぶ。ちひぶんよおよ
ひゆ海ぶ海ぶ〜〜ぶ〜〜むあ〜〜ゆへ〜〜ぶ。ぶ〜〜さら
嵩ゆれてひぶとぶ。海ぶんぶ〜〜ゆ〜〜て海野ぶち
らさせたまふ〜〜ぶう〜〜ぶう〜〜ぶ。
宅ぶつともぶやをもりまちんさゆ〜〜ハまゆ。ぶ
ぶとうの城魚をゆ〜〜ちつめんと義宮〜〜て近かっ
うれ面川ぶ〜〜のゆ書ぶをちゆゆらりこあ

[illegible]へ[illegible]ら[illegible]ん[illegible]て[illegible]
さてうし[illegible]へ[illegible]の[illegible]きこん[illegible]は[illegible]ともを
[illegible]きふをてゝろさをの[illegible]ひうてん
ひやうらやうまちゝあり[illegible]されこも忠高をも
[illegible]ていふまこはちんさん一意ふのう勢かゝく
家老人りうりあひゝ[illegible]議定[illegible]りゝく日を
をくるゆゝふわまよ第一きれ右利与冊当
あそこのむゝゝらゝ[illegible]ざいつふとゝよせく
みふきりゝゝんふちゝぐ[illegible]きぞんそのうち
よ城ゝゝ深志[illegible]屋[illegible]民とハ海[illegible]ちふうら
ちゝすよのでゝさいふ進け者ともぞゝをく
[illegible]ゝれハあゝゝじ[illegible]ゝゝゝ

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

ぞつといふとめさるべきやうもなく
浪ぶくろうでんぶ野人の一きりくろ鎧
て田畑こそはよくありさと武勇はいとそ
ろへぎてあまき者よへはくもゆれゆりんぐまこゆきく
けちくきんこ望ているまこはしみおよりん
せんりくよいさ後よてのこんくいふ者はし
家老こと此下初よは悪高ざいに戸毎ちに
ていあれきあまき者はまつのみ鴻ゆりに城
下とあきんこいうあるせんきゆりくるそ一き
りくとおりひう抜きふにいそのそみこるふふ
つきとぐこよはよはまれ分ぐこうされかそに
おひよかまとりきくくうあてのそきこあつ
もむんづきはくぐうりおさくあひせんぎおくさこ
ぢんこへしかこのくにあり川鴻次郎左衛門岡
はくくぐどりくれはまが川鴻次郎左衛門岡
七郎左衛門澤木七郎兵衛原田伊勢守はん
大将かおくく千五百人ゆんぞつ一十一月五日より
ひぜんけくけをきあつりせんしぎんふうみか
をわきくくをあしきを七日ふかひこのあまき者
けこりぎこをりけ城へつきみをるとのの人馬
解よりあげそのこはこのおくく寝をあし
こりぎこをりけ城より五里ちくてきぎんへいち
本源こへるこくはりぎはをあへをしぎし
一きのていをきくこはけそのさこをべけ。

うつつまてはせいよりとしよせんハ遠江あれハ
敵徒不相のうちゆ人馬つ[illegible]時よりうつて[illegible]ひ
うつ[illegible]とれせんぎあ[illegible]とのゝ儀よりどう
わうう八日ゆいうこをとの丸城をいで[illegible]浜ゆこう
らはきうよりくゆはせ[illegible]浜鴻子れあうりどいまやき
きうりくゆこう[illegible]掌隨せうこをぷうんえう
ゆ討築よりきうあてうゆ勢むうりぷさころ
一さいゆれうちはゆあり。表利ら冊よゆさゆあさ
ていゆりてあ。ぷゆ勢ゆあ浜をあゆせ。
ちうゆへうん。ぷうこをこてぷふつゆあちうちんを
ふゆとあ。ぷれゆうちうちゆうみさりせハ
ゆ人ゆゆ失をうゆ。裏ゆせうとうゆ。

ぷちせん義浜よりあうゆうをあ浜うゆあきハ
ゆてぷ浜鴻子れうこうゆれ人ゆちうもとうつう
ふぷうこあうるうてきこへゆかこうよ浜
人ゆゆいゆあゆをこれをうゆうこをみふうんをく
よゆんこうよこ浜れ者をゆびゆぷれゆ
ををひうれハ所豊をこをゆり一きのゆこうるいうり
ゆれいうゆうれ人をゆりひのゆ[illegible]ゆ
うんひびあいゆうゆうゆうるうん者ゆ鴻子こう
こうよへ使をこゆこうぷ天帝ゆこうんをい
こてゆいるうぷゆまこいいをあゆいゆあいよ
をこよをこうをうをうちうこうんこいひこうゆ
ゆゆ鴻子こうこゆれ者ゆゆこうゆ縁眠ゆ

こしかのまつ一ゐんかめとわらはまつて忠義公の
御せいきんとうもつてらまさつ所望とそひさ
きてまつるへきふさやわんとたゝひよ頻縁公
まうされさしろかわまはさへかめくている
ゆはしかのまつかのうへいとそしんらそすべきあく
とうれ毎んあうはしかのまつうらをそう
くへしかそのせんつ臣異れ御藏代へけ筆書といさ
さんくせんきせ〜むらさそしかうづられ角つ
むつかつくとやとさんとまけそのよくちんよ
時見とうれ〜とくもとんいんはちまつりはきちつ
まてもそのあいくやはりひくんまよ高和
へをうつくとさはかこれかあしさとれ御滅

代かとそれとあはとあはへかこあれ御滅あれ
御あらんくこくんへこそうけ
あれ〜けうくれはりひとあ〜かうむはうあ
りるかくくうはりあさかかはかも鴻子竜へい
いつまかりとも御一あとていさをたまひかはうの
ちれ者をちうくとをかうづくれけりうはとそ
れをあさんくそんはかくれたとのくこの
ぎうつともときくあ〜三宅廣弓傷と大將う
てあひくもるふ者とくもかくれ林又右傷とるし
をか十郎大野助左右傷つ西牧清兵右傷つその
やうさあくひ十五六人つゝう二百よ人さちそう
五十ちやうあひそへあくろ九日か鴻子よくろう

ぜんりゝかは式鴻ゝとゝ八南よる山ぐゝやそして
わい海ゝとびやうゝゝゝゝゝゝ東西八山道ゝけゝゝゝん
るれゝゝゝけゝう一路ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝの鴻
ゝより敵ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

きのとらうらのとらうとそーしー

鴻原一揆之後頭目帰天草島帰大将之事　六

さてもこの原きりしたんの頭目らうらうてゆん
ひやうらやうみなかみうへの大将とそのくちゑ
のかとしもとはどの。金勝のかくるうりいきや
ほ帰と宗門のけうさきくうんくあんん
やとのくひやうぎ一さくしてこの原ありつきれむう
くりうの大夫野ほ帰うとこうへけうひをそせん寿
宗門をがんをきくきるこくこうといあり。郎
えんぶ後貴臺をきうしーあんれ西源よりこあんん
きん御下初よまりせあんといひやりぬほらえはせ
きくそのざみあひくくはそのてれ人数を着到

し。者家いつれ折紙をとりこしてめて。早速請
来たるべし。わま者ハ是事我家つまをいまゝと
いまさら遅勢五千よりめて大矢野三津よりねと
命ぜんとす。とゝ者ハ鴻原村〳〵ゝ人数まゝ八千
よりとゝろかよて其頃農夫ほ良ふく
折紙判連をとゝのへ。わま者へうらこへほ良ふく
ゆく方くれハ。ほ良をつきゝれ
きいじやくあまこハ。ゆとのまいさくゝおよひくゝ
をつともをの〳〵ゝ謀勢ゝ。ゝきんゝきんゝてさ
ゝハ。ほん鴻原へうちこう。軍ゝやゝとゝきちやう
ぜんゝ。鴻原ゝ内大江ゝいひ在ゝへうりゝ
遠地離ゝゝ鴻を後会鴻ゝ名作きゝとゝ

ようてれひやうちやうかたの人数一万二千を二手に
かとけ。そこ海口に海かと人数をそこ〳〵ぞと長湯
へ使者をつかはして。右衛門尉殿をひきつれをひきくハを
しよ物尖をとうけ法いあるこ。軍神かまうり
あんくにはくくとぎちやうしてそこくにうち
あんく用意をあせ〳〵やうとこゆ

鴻原記巻第上終